

敬愛短大附属幼稚園だより 6月号

4月末から5月初めにかけての長いお休み期間が終わり、それぞれのご家庭でもお子さんたちが様々な体験をされたのではないのでしょうか。

この期間を境に園だよりの日付欄の元号も平成から令和へと変わり、日本全体が新しい時代を契機として変化しようとしています。今月号はそうした時代の変化の節目にあたって以下のようなことばを思い出しましたので紹介させていただきました。

1 自分自身が変わることで人生が変わる

自分の考え方と異なる考えや行動、あるいは、社会生活でのルールをわきまえない行動など、時には自身の感情を逆なでするような場面に出会ったことはありませんか。そのような時、私はかつて仕事上でお世話になった方が残したことばを思い出します。特に、このことばは、何かにチャレンジしようとするときや仕事を進める上でも、そして、人生を歩む上でもとても心に残ることばです。紹介させていただきます。

そのことばとは、

「考えが変われば行動が変わる／行動が変われば習慣が変わる／習慣が変われば性格が変わる／性格が変われば人格が変わる／人格が変われば人生が変わる」

いかがでしょうか、人の気持ちは時として弱くなる時があります。どのようにとらえるかも人それぞれですが、とても心に残ったことばでしたので、何かに行き詰まったり、怒りがこみあげたり、辛かったり、悔しかったり、悲しかったりした時に思い出していただくと勇気が湧いてきますのでそのようなときにまた思い出してみてください。

2 「子育ての死角」

今から約19年前の1999年12月25日クリスマスの日、ちょうど私が48歳の時に執筆した「子育ての死角」という本が伶俐堂という出版社から企画出版されました。

出版社が最初に付けた書名は「自殺期の子どもを育てる」でしたが、あまりにも刺激的なタイトル（当時は子どもの自殺が多数あった時期）であったため、さすがにこれではと変更されたものです。当時はAmazonを始めいくつもの会社からネット販売が行われ、紀伊国屋等の書店でも販売されていた本です。この本は我が家の子どもたちが私と同じ年齢になった時に、自分の親は、子どもが親となった時期を迎えた時にどのような気持ちや考え方で自身の親が子育てをしていたのかを知ってほしくて執筆したものです。

現在では絶版になっていて中古本でも入手できませんが、現千葉敬愛短期大学の明石要一学長（当時は千葉大学教育学部）さんに巻頭の文章を寄せていただいています。全国の公立図書館を始め、京都大学法学部の図書館や中国の天津市の教育系大学などで蔵書されて貸し出されています。（少し変わったところでは、弁護士さんが読んでブログに書いています）千葉市でも10冊ほどが図書館に所蔵されており、先日も緑区の図書館で貸し出されていることが分かりました。

こんなに前のものが今読んでも役にたつのかと思われるかもしれませんが、当初から時代が変わっても変わらない不易なものとして執筆したものです。子育ての方法は変化しても今も昔も子育ての本質は変わりません。敬愛幼稚園にも「なかよしルーム」に置いてありますので職員にお尋ねください。国内の大学等の所蔵先はこちらで検索。<https://ci.nii.ac.jp/author/DA12454184>

子育ては大変なエネルギーを要しますが、苦しむものではなく、楽しむものです。自分の育てた子どもが成長していくことはとても楽しみです、同時に責任もあります。親としてこう育ててほしいという思いがあるのは当然ですが、子どもも人格がありますので、こうでなくてはいけないという押し付けは決してよい結果を生み出しません。子どもが問題に直面したときには、親として心配する気持ちは必要ですが、子どもに代わって先回りして解決しようとしません。そして、子どものことばを鵜呑みにせずに、子どもとじっくり考えたり、相手の気持ちについて考えさせることの方がずっと子どもは大きく成長します。主観的な考え（誰でもできます）から客観的な考え方が出来る人に育つことがこれから必要になってきます。

（園長 杉山清志）